

《初任者グループ》

＝第1グループ（17名）＝

担当：澤田 小百合 委員

1. 初任者グループのグループ討議の目標

今年度新しく、就職担当経験年数が少ない就職担当者向けに就職に対する専門的な基礎知識の習得と就職担当者間の情報交換の中からそれぞれの短期大学に適した、よりよい就職支援のあり方を考える機会としていく。

2. グループ討議のタイムスケジュールと主な内容

【1日目】

内 容	備 考
(14:30～16:00) 初任者のための就職基礎 資料集を活用して、細かく数字の分析と内容について解りやすく解説。	日本私立短期大学協会 事務局中澤課長
(16:00～16:30) 企業が求める人材とは 有効求人倍率はバブル期を越える勢いがあるが、短期大学の採用にいたっては、一般企業の就職はまだまだ厳しい状況となっている。そこで企業が求める人材を企業経験者の北川副委員長が要点を解説。	北陸学院大学短期大学部 就職問題委員会 北川裕樹副委員長
(16:30～17:00) 学生の学生力を高める取組 就職支援からキャリア形成支援への転換をすることで、真の就職支援のあり方を探る。 九州女子短期大学の事例を交えながら報告。	九州女子短期大学 就職問題委員会 澤田小百合委員

【2日目】

内 容	備 考
13:00～ 自己紹介 資料を使って大学の紹介をお願いします。	事前をお願いしていた就職の資料を使って自己紹介
14:00～ グループに別れて討議する内容を決定します。	1日目で聞いた内容など身近な疑問について討議内容を決めていきます。
14:30～ 小グループに別れてグループ討議①	リーダーを残しグループチェンジ

15：00～ 小グループに別れてグループ討議②	次のリーダーを残してグループチェンジ
15：30～ 小グループに別れてグループ討議③	その次のリーダーを残してグループチェンジ
16：00～ 小グループに別れてグループ討議④	その次のリーダーを残してグループチェンジ
16：30～ 5分間で成果発表	
16：50 まとめ	

※ワールドカフェ方式を使って小グループに別れて討議を行いません。

3. グループ討議研修の成果と課題

(1) グループ討議の方法

1日目の初任者全体研修から見えてきたものや各大学の資料を基に大学の紹介と就職支援での問題点を

自己紹介で各自5分程度報告頂き、4テーマを抽出。

- ①就職活動を積極的に行なうためには
- ②就職への意識改革
- ③学生のモチベーションを上げる指導法
- ④自分にあった仕事を探す

以上の4つについて小グループでの討議を行なった。

それ以外に質問や疑問については、各大学からの事例を交えながら解決していった。

(2) 討議内容

①就職活動を積極的に行なうためには

- ・ 早目早目のガイダンスの実施、インターンシップの活用、説明会への学生の参加、学生個別の対応などが挙げられ、指導側として就職活動を楽しむ工夫を行なうなど就職活動での初めのきっかけづくりが必要で、学生自らが動く筋道を作る工夫を行なっていくことが必要であるとの結果となった。

②就職への意識改革

- ・ 就職に対する学生の意識改革を行なうために、就職活動を進める時の環境づくりが必要ある。学生意識から社会人になるためにOB・OG等の大人と接する機会を作る。学生が就職課やキャリアセンターに来るような環境作りも必要ではないか（飴などがおいであるなど来るきっかけを作る）などの意見の集約ができたが、最終的には職員の意識改革が必要で職員のスキルアップを図る必要性もあるという結果となった。

③学生のモチベーションをあげる指導法

- ・ 個別に指導をする。学生と話をする。今以上にモチベーションを下げないように工夫

する。学生との信頼関係を構築する。学生とのコミュニケーション空間作りを行い聞き上手なることも重要で、自分から学生との交流できるように勤める（例：学内を散歩しながら学生に声を行なう）など学生との関わり方を工夫していく、また、教員との関係を築き連携を取っていく教職共同で学生の指導にあたることも必要である。

④自分にあった仕事を探す

- ・学生は、ハローワーク・ジョブサポーターをしっかりと使って仕事探しを行なうことも大切、合同説明会や適性検査を受けながら自分がどういうことに興味があるかを見つけ出だす。就職担当者は、初めから適職に就くことばかりを望まず転職もあることを前提の就職活動も視野にいて、指導を行なうことや、社会に輩出していく学生を厳しく育てる。就職試験に落ちる事も経験させ本来の就職活動の大変さを経験させる事も大切である等が挙げられた。

結論としては、学生にあった仕事を探すサポートを行なう。その仕事を探すためのツールや方法を伝える手立てをもち、学生との信頼関係を築くことが必要である。

4. 初任者グループのグループ討議の成果と課題

今回の研修から初任者グループを作りグループ討議を行なったが、初任者といっても一人一人のスキルや大学での経験年数、大学の規模の違いがあり、抱える問題や課題にも大きな差があったため、全体のグループ討議では活発な意見交換にはなかなか至らなかった。

そこで全大学に共通する課題感を見つけ個々の大学の課題を解決後、共通の課題について小グループで討議をおこなった。時間管理を運営委員で行ない、なるべく多くの大学との話ができるようにグループ討議をおこなった。その中で様々な意見を集約し最終的には課題について発表を行うことで、テーマについて共通理解ができ理解が深まった。

全グループに共通するキーワードとして、就職担当者の意識改革とスキルアップが求められており、今後、就職担当者の意識改革をどのように行い、スキルアップの手法として何が必要なかを具体的に詰めていく必要があるのではないだろうか。それは手法だけにとどまらない、就職担当者として意識付けも必要になると考えられる。

=第2グループ(18名)=

担当：北川 裕樹 委員

1. 分科会の目標

初任者向け、就職・進路指導のあり方をわかりやすく説明する。

基本事項を情報共有し、また現状把握するために一部説明について幼・保グループと合同で開催した。

初任者グループ2班は一日目のグループ討議を全て合同の講義形式で実施。

2. 分科会スケジュールおよび進行

一日目

(1) 短期大学の現状と就職環境【日短協事務局】

状況調査内容を踏まえ、資料集の記載内容や現状報告、過去からの推移を基に現状分析し、短期大学の現状と就職環境を詳細に説明。

(2) 企業がもつめる人材【北川】

就職支援現場で就職活動に向けての準備と指導ポイント、選考時に採用段階での留意ポイントを指導する目線での説明。

(3) 学生の学生力を高める取組【澤田委員】

就職支援からキャリア形成支援への転換が求められる中、「多様化する学生支援のあり方について」との題目で実際に取組んでいる事例を基に説明。

二日目

各グループに分かれ、前日の内容およびグループ討議要望のあった事項について数グループに分かれ討議し発表した。

3. 分科会での討議内容(成果と課題)

討議内容

前日の説明の振り返りとして(1)からは就職環境の現状と就職支援の充実策(2)からはコミュニケーション能力を上げるための取組み(3)からは社会人基礎力を身に着けるための取組みの三項目を討議した。

成果と課題

(1) ①小規模な園への希望が多い

②保育系は問題なく推移している

◎現状は上記の通りであるが大学生とのすみ分けが難しく、短大のメリットが不透明

(2) ①コミュニケーション能力を安易に考えている学生が多い

②自分ではコミュニケーション能力が高いと誤認している

◎レベルアップの方策として、外部との連携(ハローワーク等)強化

◎アクティブラーニングの授業を活用しレベルアップを図る

- ◎インターンシップ参加を推奨し、参加させることでレベルアップを図る
- ◎各種発表会(実習・インターンシップ)通して話す力を身につける
- (3) ①部活動をやってきた学生をリーダーにして上下関係等を教える
 - ②マナー講座等による指導
 - ③キャリアデザイン、社会人基礎力という授業で身につけさせている
- ◎現状、教職員の人数が不足しており「やらなくてはいけない、やるべきだ」とわかっているがやれない状況がある
- (4) その他(討議要望項目)
 - ①卒業後、離職した学生への就職支援および勤務の有無の把握方法
 - ◎学生・企業へのアンケート等で把握
 - ②キャリアサポートセンター等を利用しない学生へのアプローチ
 - ◎アドバイザー教員と共同し情報交換し、当該学生へ周知する
 - ◎学生本人、実家に電話や郵便によりアプローチする
 - ③インターンシップ実施状況
 - ◎年々参加学生は増加しており、1day・2dayのインターンシップが確実に増加している
 - ④学生の留学経験と就職の結びつき
 - ◎留学経験が即就職に結びつくケースは極めて少ない
 - ⑤短大生向けの就職活動イベントの実施(内容)
 - ◎ほとんどの短大が大学も併設されており、同時に実施されている

4. 研修会全体について

研修会の目的にそって「チーム短大」で各種問題解決に向けた研修会であったかという疑問が残るが、初の試みでグループ討議時間を利用し講演、説明を実施したが受講者からは好評であったと感じられた。

5. 研修会での成果と課題

初任者グループの意見は概ね好評であったと思われるが、一部受講者で講演Ⅰについては専門職なので興味がなかったとの意見があった。

また、講演Ⅱについても短大生のSPIと少し温度差が感じられたとの意見があった。ただし、ごく一部の受講者からの意見であり、全体的には成功であったと思われる。

今回グループ討議の時間を使って全てのグループで講演や説明会を実施したが、特に初任者グループでは好評で、もっと時間をとって説明してほしいとの意見が多かった。

一方で経費削減の観点から研修会の実施、内容についての再考が求められている事実はあるものの、参加者へ次年度の開催場所や大まかなスケジュールを事前にアナウンスし、その上で参加依頼し参加者を募り、今以上興味が持てる研修会を開催する必要があると感じた。